

本書について

初版から10年を迎え、幸運にも本書は改訂版を出版する運びとなった。基本的には、タイトルの示すとおり“Sounds Make Perfect”のポリシーは変わらない。本書では、母音・子音の個々の音素の説明や単語・文レベルでの練習だけではなく、実践的なダイアログも取り入れて英語の発音や音声のしくみを学習・練習できるように工夫している。本書を使用することにより学習者は英語音声学の基礎を養うとともに、実際の場面を想定した練習によるコミュニケーション能力を高めることができると確信している。また発音記号（後述の「音の書き表わし方」で説明）をはじめイントネーション・ラインや強勢記号などの実際の音声表記を多く取り入れており、「視覚的に英語の発音をとらえる」ことで学習者が英語の音のしくみについてより深く理解できるようになっている。さらに、個々の音素の発音、単語の発音、単語間の音のつながり、文レベルというbottom-up方式によるリスニングのための練習問題も多く用意した。従来の教科書とは異なる音声学的な視点からリスニングを捉えたタイプの取り組みといえる。日常における英語音声の発話においてはもちろん、TOEIC・TOEFLなどのリスニング対策にも大いに役立てていただきたい。

本書はUnit 1 (Vowels and Consonants, Practice 1~10) とUnit 2 (Dialogs and Exercises, Lesson 1~20) の構成になっている。Unit 1では各音の解説と発音方法、Unit 2ではダイアログをベースにしながら英語の音声表現に必要なポイントの解説をまとめている。各Practice・Lessonは、左ページに解説、右ページに練習問題をおき、見開きで1つの単元を学習できるようになっている。練習問題はLet's Listen!とLet's Try!の2パートから成り、Let's Listen!では音声の聞き取り・書き取り練習、Let's Try!では発音・表記練習などを中心に展開している。また、1つのダイアログにつき学習ポイントを5つ程度に限定し、英語の発音の特徴をやさしい英文で確認できるようにした。それぞれのダイアログにはReviewページがあり、設問に解答することでダイアログ中の学習ポイントを確認できる。

学習者はLessonが進むにつれ、英語の発音において注意すべきポイントが数多くあることに気づくことになる。さらに個人による発音練習と並行しダイアログを効果的に用いてスキット（寸劇）を行うなど、ペア練習・発表に活用することも提案したい。授業の中で練習し覚えたことは学習者自身の英語表現スキルとして定着し、今後の学習意欲につながることであろう。また、改訂版を機にUnit 1 (Vowels and Consonants, Practice 1~10の左ページの練習語) には動画を用意した。英語母語話者による口の動きを参考に練習してほしい。

本書では、主として「標準アメリカ英語」を使用している。周知の通り英語には様々な変種（方言）がある。しかしながら、学習者が発音を学ぶ際にはそれらが混同しないよう1つの変種の体系を確実に学ぶことから始めるべきだと考える。よって本書では便宜上「標準アメリカ英語」を使用するが、他の変種との相違点にも興味・関心を持っていただきたい。英語の発音学習はたとえ良い教科書があっても自主学習することは困難といえよう。手本となる発音を聴き、真似て練習を重ねていくことで、ある程度体得できていくものではあるが、練習した音や文だけしか発音できないということでは、発音学習の達成感を味

わうことはできない。

著者の願いは、学習者が英語母語話者や英語教師の助けから最終的に自立し、学習者がそれぞれ目指すところの英語音声表現に少しでも近づくことであるが、英語を話す際、日本語（母語）のアクセントを気にする学習者は少なくない。しかしながら、今や英語使用圏の拡大により地域特有の英語が生み出され、世界中で地域の特性を保ちながらも相互の理解可能な使い方による英語（World Englishes や New Englishes）が使用されている。

Everyone has an accent.

たとえ英語が第一言語でなかったとしても、堂々と話してみよう。大切なのは英語を話す際に「誤解されないレベルの発音」を目指すことであり、過度に発音を気にする必要はない。音声学の知識やそれに伴う練習はよりスムーズなコミュニケーションをする助けとなるものである。

本書との出会いにより、英語音声学への扉が開かれた。学習者が英語の音声表現に興味をもち、社会で、また教育の場で自信をもって音声表現ができるようになってくれることを願い、期待する。

最後に、本書執筆にあたり英語表現について多くの助言をいただいた Linda Arai 氏と動画撮影のために時間と笑顔を快く提供してくださった 崎ミチ・アン 氏に厚く感謝の意を表したい。

2019 年 12 月

著者一同

目 次

本書について	iii
音の書き表し方・ダイアログについて	v

Unit 1 Vowels and Consonants

音について	4
母音について	5
Practice 1 前舌母音 (front vowels)	6
Practice 2 後舌母音 (back vowels)	8
Practice 3 中舌母音 (central vowels)	10
Practice 4 二重母音 (diphthongs) (1)	12
Practice 5 /əʊ/ を含んだ二重母音 (diphthongs) (2)	14
子音について	16
Practice 6 閉鎖音 (stops)	18
Practice 7 鼻音 (nasals)	20
Practice 8 摩擦音 (fricatives) (1)	22
Practice 9 摩擦音 (fricatives) (2) と破擦音 (affricates)	24
Practice 10 側音 (lateral) と半母音 (semivowels)	26

Unit 2 Dialogs and Exercises

Dialog 1: Welcome to Our Dorm	30
Vocabulary List with IPA	31
Lesson 1 音節と語強勢 (syllable & word stress)	32
Lesson 2 文強勢 (sentence stress)	34
Lesson 3 ポーズ (pause)	36
Lesson 4 ピッチとイントネーション (pitch & intonation)	38
Lesson 5 音のつながり I 連結 (linking)	40
Review 1	42
Dialog 2: Enjoy Your Lunch	44
Vocabulary List with IPA	45
Lesson 6 音のつながり II 脱落 (elision) (1)	46
Lesson 7 音のつながり III 脱落 (elision) (2)	48
Lesson 8 音のつながり IV 同化 (assimilation) (1)	50
Lesson 9 イントネーション — 列挙と選択疑問文 (intonation — series & alternative question)	52

Lesson 10 機能語の弱形と強形 (weak form / strong form)	54
Review 2	56
Dialog 3 : See You at My Office	58
Vocabulary List with IPA	59
Lesson 11 音のつながり V 同化 (assimilation) (2)	60
Lesson 12 音のつながり VI 同化 (assimilation) (3)	62
Lesson 13 句動詞 (phrasal verbs)	64
Lesson 14 イントネーション — 付加疑問文 (intonation — tag question)	66
Lesson 15 話者の意図と強勢 (stress with speaker's intention)	68
Review 3	70
Dialog 4 : Happy Holidays!	72
Vocabulary List with IPA	73
Lesson 16 合成語 (compound words)	74
Lesson 17 名詞連続 (noun series)	76
Lesson 18 感嘆文・最上級・強調語 (exclamation, superlative, emphasis)	78
Lesson 19 強勢の移動・弱化・強化 (word stress shift)	80
Lesson 20 話者の意図とイントネーション (intonation with speaker's intention) ..	82
Review 4	84
付 録	87

Unit 1

Vowels and Consonants

Unit 1 では母音 (Vowels) ・子音 (Consonants) について英語音声のしくみを学習し、基本的な発音を練習します。

Practice では各音について学習し、発音記号を意識しながら母音・子音の発音の基礎を身につけましょう。

Let's Listen! では音の違いを聞き取るために 4 種類の課題を通し、まぎらわしい音へ注意を払いながら、発音およびリスニング練習を行います。

発音記号に慣れ、自分で発音に結びつけていくことができるようになると、英語学習においてまた新たな興味が広がることでしょう。

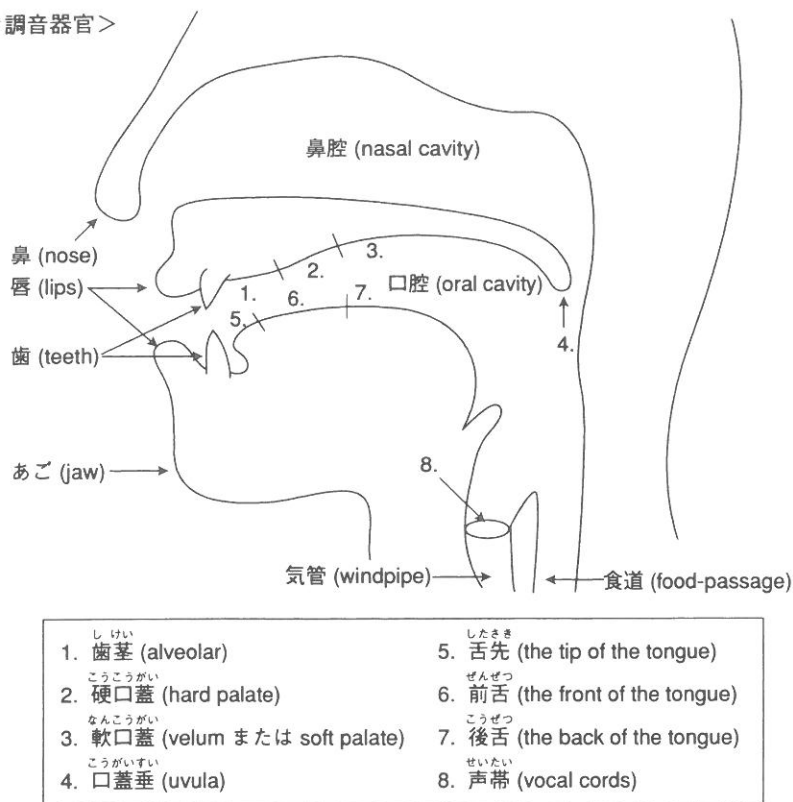
◆ 音について

我々は話をするときはもちろんのこと、口笛を吹いたり、ため息をついたり、舌打ちをしたり、いろいろなときにいろいろな音を発している。それらの音のうち、言語を構成する音のことを言語音という。音声学で扱う音とは、この言語音のことである。言語音(以下「音」と呼ぶ)は、大きく母音と子音に分けられる。声を出すときの空気の流れに対して妨害や制限が加えられないものが母音、何らかの妨害や制限が加えられるものが子音である。

各音の説明の前に、それらの音を作っている舌と口の内部について説明する。舌については、本テキストでは大きく3つの部分に分けて扱う。舌の先が舌先、舌先のすぐ後ろの部分が前舌、さらにその後ろの部分が後舌である。

口の内部は目で確認するのが難しいので舌先を使って確認してみよう。まず舌先を上歯の裏にあててみる。そこから舌先を歯の付け根とその後ろの盛り上がったところまでずらす。そこが歯茎(alveolar)である。さらに舌先を上あごにそって後ろにずらすと、硬くて広いところがある。そこが硬口蓋(hard palate)である。もう少し後ろに舌先をずらしていくと、硬口蓋の後ろに今度は軟らかいところがある。そこが軟口蓋(velum または soft palate)である。その後ろにあるのが口蓋垂(uvula)である。

<図1: 主な調音器官>



英語と日本語では発声の仕方も異なっている。英語は日本語よりも強い息を使って発音される言語である。そこで英語を発音するときには腹式呼吸を用い、お腹からしっかり声を出さなければならぬ。

◆ 母音について

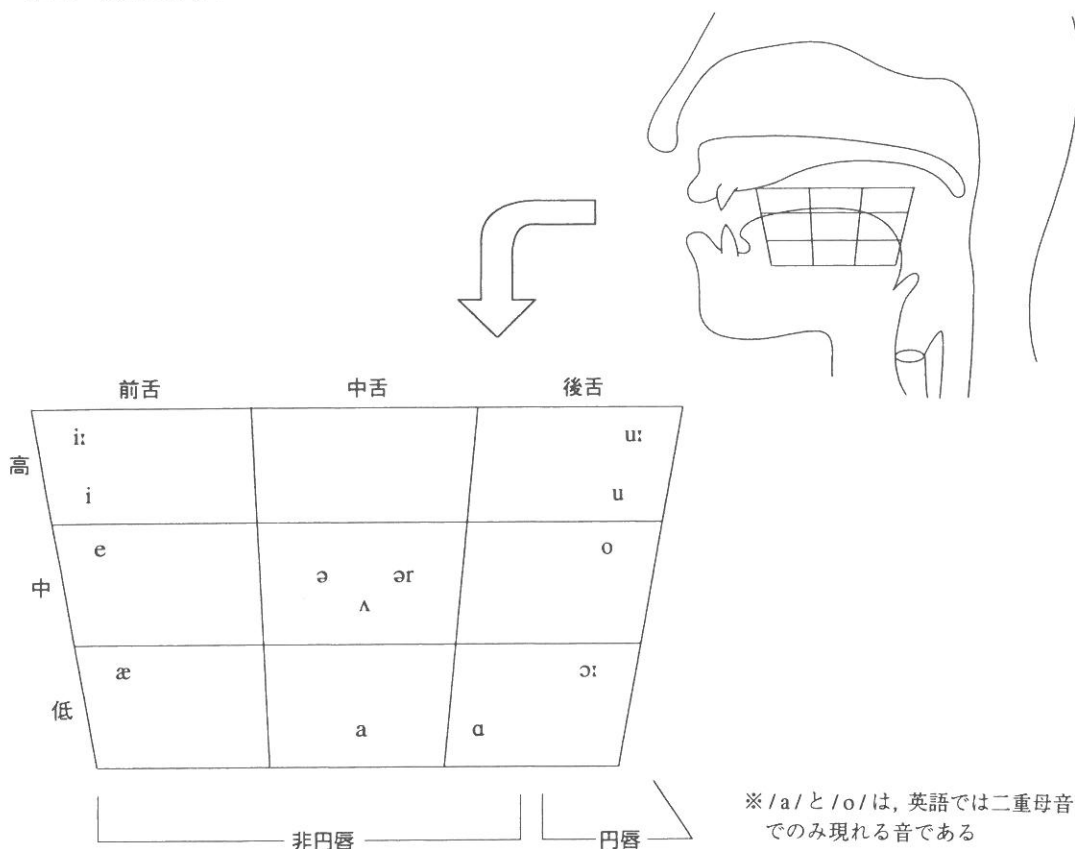
母音は次の3つの要素によって音が決定づけられる。

- ① 口がどのくらい大きく開いているか (舌の高さ) ※口蓋から舌がどれくらい離れているか
- ② 舌のどの部分が一番高くなっているか (舌の位置)
- ③ 唇が丸くなっているかどうか (唇の形)

口を軽く開いて「あー」という声を出しながら、あごを上下させてみよう。あごの位置を下げて口の開きを大きくしたり、あごの位置を上げて口の開きを小さくすると、口の開きに応じて音は変化する。またあごの高さは変えないで同じように声を出しながら、今度は舌を下の歯の裏に押しあてたり、喉の方に引き寄せたりして舌の前後の位置を変えてみよう。やはり音は変化するはずである。さらに「あー」という声を出しながら唇を丸めてみると、唇を丸めていないときとは違う音になることがわかる。これら3つの要素が組み合わさって、母音の音色は作られる。

舌の前の方が高い母音は、舌を口の中で前に押し出すようにして発音される。これを前舌母音という。逆に舌の後ろの方が高い母音は、舌を後ろに引き寄せるようにして発音される。これを後舌母音という。前に押し出したり後ろに引き寄せたりしないで、ごく普通にしているとき舌は口の真ん中に収まっているが、舌の(前後の)位置がその状態にある母音を中舌母音という。

<図2：英語の母音>



Practice 1 前舌母音 (front vowels)

① /i:/

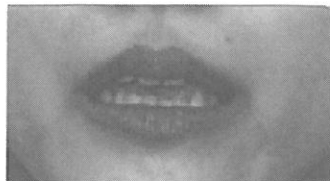
舌先を下の歯の裏にあて前舌を口蓋の近くまでもち上げる。唇の両端を横に引っ張るようにして息を出す。この音を発音するときには唇も舌も緊張している。あごの下に手をあてると筋肉が緊張しているのが感じられる。



each [i:tʃ] seat [si:t] meet [mi:t] week [wi:k] tea [ti:]

② /i/

舌先を下の歯の裏にあて、舌の高さを /i:/ よりも少しだけ下げ。 /i:/ を発音するときよりも唇と舌の緊張をゆるめて発音する。息を出すときにも唇の両端を横に引っ張らない。 /i:/ とは音の長さだけでなく、唇や舌の緊張の具合が異なるので /i:/ を短く発音したもので代用しないこと。



ink [ɪŋk] pick [pɪk] give [ɡɪv] sit [sɪt] miss [mɪs] easy [i:zi]

③ /e/

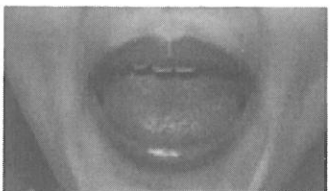
舌の高さを日本語の「エ」よりも少し下げる。舌先を下の歯の裏に押しあて、そのまま舌を前方に押し出すようにして息を出す。



end [энд] guess [ɡes] very [véri] head [héd] when [wén]

④ /æ/

舌先を下の歯の裏に押しあて、 /e/ のときよりもさらに舌を下げて口を大きく開く。その状態のまま、口を横にも広げて発音する。日本語を母語とする学習者は、 cat /kæt/ のように /k/ の後ろにこの母音が続く場合、日本語の「キャ /kja/」と発音してしまうことが多いので気をつけること。 /kæ/ は /kja/ よりも舌の位置が前にくる。



ask [æsk] dad [dæd] class [klæs] thank [θæŋk] last [læst]

Step 1: CD を聞き、発音してみましょう。

1. eat – it 2. feet – fit 3. feel – fill 4. leave – live 5. reach – rich
[i:t] – [ít] [fi:t] – [fít] [fi:l] – [fí:l] [li:v] – [lív] [ri:tʃ] – [rítʃ]
6. pet – pat 7. pen – pan 8. beg – bag 9. said – sad 10. send – sand
[p^hét] – [p^hæt] [p^hén] – [p^hæn] [bég] – [báég] [séd] – [sǎéd] [sénd] – [sǎénd]

Step 2: /i:/ /i/ /e/ /æ/ に注意し、CD を聞き、発音されたほうの発音記号を○で囲みましょう。

1. [fi:t] – [fít] 2. [li:v] – [lív] 3. [i:t] – [ít] 4. [ri:tʃ] – [rítʃ] 5. [fi:l] – [fí:l]
6. [p^hén] – [p^hæn] 7. [séd] – [sǎéd] 8. [p^hét] – [p^hæt] 9. [sénd] – [sǎénd] 10. [bég] – [báég]

Step 3: CD を聞き、() に単語を書き入れましょう。次に /i:/ /i/ /e/ /æ/ に注意しながら読んでみましょう。

1. He will () here.
2. Will you () home on time?
3. () the box with books.
4. I need to buy a ().
5. I () your pardon?
6. () () all!
7. These shoes () my ().
8. Can I () your () on the back?
9. They () it was ().
10. She'll () a () of ().

Step 4: CD を聞き、下線部に /i:/ /i/ /e/ /æ/ のどの音が入るかを選び、書いてみましょう。
また単語のスペリングを書いてみましょう。

(例) [t^h i: tʃ] ⇒ (teach)

1. [h ____ t] ⇒ () 2. [p^h ____ k] ⇒ () 3. [f ____ n] ⇒ ()
4. [l ____ nd] ⇒ () 5. [m ____ t] ⇒ () 6. [h ____ d] ⇒ ()

※ [ɫ] (dark L) ⇔ Practice 10
[^h] (aspiration) ⇔ Practice 6

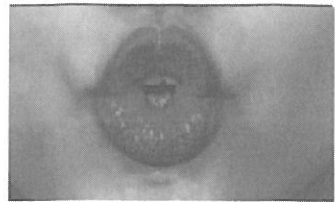


Practice 2 後舌母音 (back vowels)

① /u:/

唇を突き出して、しっかりと丸める。のどの奥から声を出すつもりで発音する。唇も舌も緊張している。

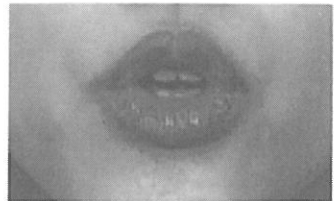
pool [p^hú:l] food [fú:d] juice [dʒús] use [jú:s] do [dú:]



② /ʊ/

口を /u:/ より少しだけ大きく開き、のどの奥から声を出すつもりで発音する。/u:/ よりも緊張はゆるめるが唇は丸める。この母音と /u:/ とでは、音の長さだけでなく、唇や舌の緊張の具合が異なるので、/u:/ を短く発音したもので代用しないこと。

book [búk] good [gúd] shook [júk] hook [húk] look [lúk]



③ /ɔ:/

唇を丸めて尖らせ、あごをしっかりと下げて口を縦に大きく開ける。日本語の「オ」よりもあごの位置はずっと低い。舌尖は下の歯の付け根から後ろにずれている。のどの奥のほうから声を出すつもりで発音する。発音している途中で口の開け方が小さくならないように注意すること。

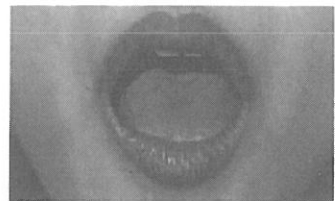
ought [ɔ:t] talk [t^hɔ:k] foreign [fɔ:rən] sought [sɔ:t] law [lɔ:]



④ /ɑ/

他の後舌母音と違い、/ɑ/ は唇を丸めないで発音する。/ɔ:/ と同様にあごをしっかりと下げ、のどの奥のほうから声を出すつもりで発音する。/ɑ/ は他のどの母音よりも口の開け方が大きい。/ɔ:/ との大きな違いは舌の高さよりも唇を丸めるかどうかである。

odd [ád] box [báks] socks [sáks] hot [hát] want [wánt]



Step 1: CD を聞き、発音してみましょう。

1. pool – pull 2. fool – full 3. who'd – hood 4. add – odd 5. band – bond
[p^hú:t] – [p^hút] [fú:t] – [fút] [hú:d] – [húd] [æd] – [ád] [bənd] – [bánd]
6. black – block 7. tap – top 8. cat – cot 9. map – mop 10. hat – hot
[blæk] – [blák] [t^hæp] – [t^háp] [k^hæt] – [k^hát] [mæp] – [máp] [hæt] – [hát]

Step 2: /u: // u // ə / に注意し、CD を聞き、発音されたほうの発音記号を○で囲みましょう。

1. [fú:t] – [fút] 2. [æd] – [ád] 3. [p^hú:t] – [p^hút] 4. [bənd] – [bánd] 5. [hú:d] – [húd]
6. [t^hæp] – [t^háp] 7. [mæp] – [máp] 8. [blæk] – [blák] 9. [hæt] – [hát] 10. [k^hæt] – [k^hát]

Step 3: CD を聞き、() に単語を書き入れましょう。次に /u: // u // ə / に注意しながら読んでみましょう。

1. I need a ().
2. Push and ().
3. He's a ().
4. I'm ().
5. () taken my ()?
6. () an () number.
7. Are there any () ()?
8. I saw a () under the ().
9. It's (). I need a ()!
10. () on the ().

Step 4: CD を聞き、下線部に /u: // u // ə / のどの音が入るかを選び、書いてみましょう。また単語のスペリングを書いてみましょう。

1. [p^h__t] ⇒ () 2. [sp__n] ⇒ () 3. [b__t] ⇒ ()
4. [__n] ⇒ () 5. [θ__t] ⇒ () 6. [st__p] ⇒ ()

Practice 3 中舌母音 (central vowels)

① /ə/

この母音はあいまい母音 (schwa) と呼ばれるが、名前のとおり、常に弱く短くあいまいに発音される。口の力を抜き、口を軽く開いた状態で軽く音を出す。

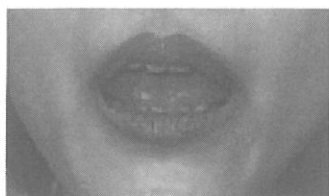
an [ən] asleep [əslɪp] away [əweɪ] some [səm] for [fə]



② /ʌ/

/ʌ/ は、/ə/ が強く発音されたときの音である。舌の前後の位置は /ə/ と同じで、口の開き方もあまり大きくないが、強く発音される分だけ /ə/ よりも少し大きく開かれる。

up [ʌp] cut [kʌt] much [mʌtʃ] just [dʒʌst] young [jʌŋ]



③ /ɜ:/

口を軽く開いた状態で、舌先を上に向け、力を入れて後ろに反り返らせる。舌先が口内のどの部分にも触れないように気をつけること。唇を軽く丸めると発音しやすい。/ɜ:/ は2つの記号を用いているが1つの母音である。

earth [ɜ:θ] dirt [dɜ:t] first [fɜ:st] heard [hɜ:d] sir [sɜ:]



</ɜ:/ のもうひとつの発音>

/ɜ:/ には舌先を上に向けない発音の仕方もある。その場合は、舌先を下に向けたまま、舌の両側を上あご(上奥歯の歯茎)に押し付けるようにして発音する。舌先を上あごにつけないように気をつけること。どちらの発音の仕方をしていても音色はほとんど同じである。